

細田氏と教団 公の場での説明不可欠

「輿論の立」の長がなぜ、掌
々と公の場で語る」といひできは
いのか。非公開の懇談は、國民
が納得である、説明責任の果た
し方とは言えない。細田博之衆
院議員によれば、改めて議院運営委
員会での質疑や記者会見に臨む
よの強く求められる。

をしたいんだな?を認めて、この。
おのうは新たな機関の報道はなく、教団側から要望の依頼は受けなかったこと語った。19年10月の会合で「総務総理に早速報告したい」と述べたところについては、「リック・サービス」であり、実際の報告はしてこないと説明したところ。

幾くのは、教団が深刻な社会的問題を抱える団体であるとい

田代はなる安倍氏の果たした役割につけ、足りる限りの説明を述べすべくめた。
記者会見などもじつない理由としていたが、自由党時代のいじめを議長の立場で語るのはやれぬじではないと見てたところ。説明責任からの繰り回しの繰りかじめだが、公正であるべく議事に対する信頼を損なうしこれ以上がわからなくなるのだね。

昨年7月の安倍元首相の銃撃事件の後、世界平和統一家庭連合（旧統一教会）との接点がしばしば指摘された細田氏がそのうえ、与野党の代表者との懇談という形式で説明に応じた。昨年の6月に紙一枚の簡単なコメントで済ませようとして批判を浴びるも、議運委員長らに補充説明をしたが、公の場での説明は控ひやめた。このままでは良

「一場の通常国会を乗り切れない」と判断したのだろうが、いわば「密室」でのやりとりで疑惑が解消されるはずがない。

難いのは、教団が深刻な社会的問題を抱える団体であるといつていいと、安倍氏の事件の後、初めて振りこたえ渡るなりといひじめた。靈感商法は過去のじみで、世界の平和とか家庭の幸せとか、やうやく詰しか聞いたことがないといひ。政治家として、あまりに認識がお粗末ではないか。

細田氏は14～21年、田畠院の
中でも特に教団の關係が深い
むわねの安倍派の命駒を務め
た。田畠は教団職の選配は一切
していなこと相應したむづり
が、田畠も教団をひたゞめと

らかになった。自由民主党による
自民党的「虚偽」の不十分さが
改めて浮き彫りになつた形だ。
教団との決別を誓つたら、過去
のつながりの徹底解明から逃げ
る」とは許されない。

田代の安倍氏の黒たした役割について、知りうる限りの説明を述べさせていただきます。